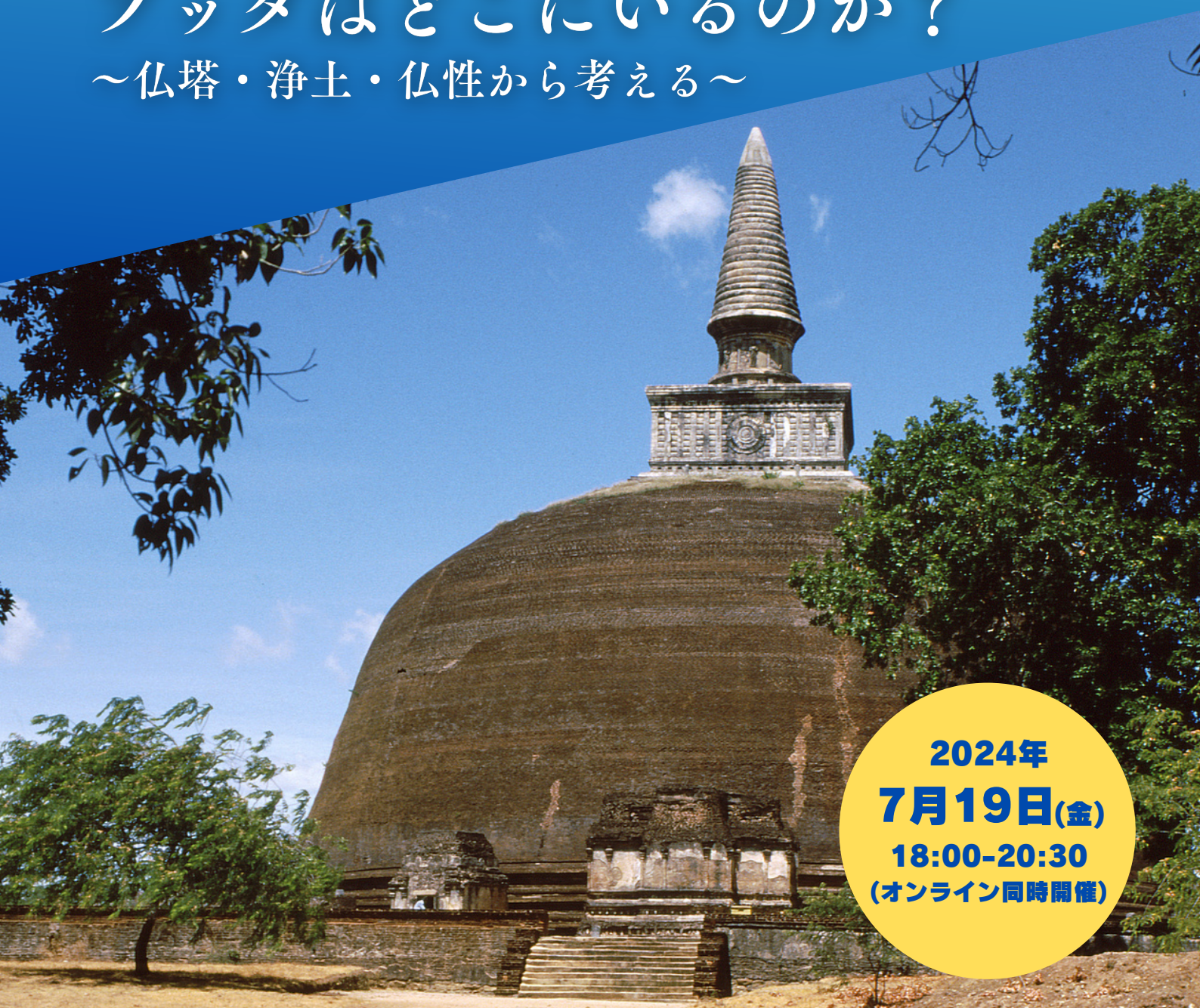


第35回 BDKシンポジウム

ブッダはどこにいるのか？

～仏塔・浄土・仏性から考える～



2024年
7月19日(金)
18:00-20:30
(オンライン同時開催)

ブッダの入滅後、ブッダの説いた「教え（法）」とともに、弟子たちの信仰対象となったのは、火葬後に遺ったブッダの遺骨をもとに建立された「仏塔」でした。

また、「ブッダに出遇いたい」という願いは、後に「浄土」という概念を生み出しました。

一方、私たち全てが実は「ブッダそのもの（仏性）」を有しているという考え方も生まれました。

象徴としての仏塔なのか、私たちの信仰の世界なのか、「ブッダ」はどこに見出せるのでしょうか。

仏塔・浄土・仏性をキーワードに、インド仏教の専門家から学びます。

参加費：2,000円（学生割引1,500円）

会場：東京都港区芝4-3-14 仏教伝道センタービル 8階「和」の間

定員：会場60名、オンライン100名

お申し込みは <https://www.bdk.or.jp> から



公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI



講師紹介

仏塔と浄土



井上 陽 (いのうえ あきら)

1970年京都生まれ。龍谷大学大学院博士後期課程仏教学専攻単位取得退学。修士（文学）。Whitman Collge講師（アメリカ・ワシントン州）、相愛大学人文学部准教授を経て、現在、相愛大学非常勤講師。浄土真宗本願寺派僧侶。専門はインド仏教、特にインドおよびその周辺地域の仏塔信仰の系譜を研究。著書にThe Sutra of Contemplation on the Buddha of Immeasurable Life, 2nd Edition（共著：英訳『観無量寿経』）、論文に「インド及びその周辺地域出土銘文の〈衆生〉について」「仏牙舍利攷」「ストゥーパと出家者」など多数。

【講師からのメッセージ】

釈迦の入滅後、ブッダの存在は抽象的な理念としての〈教え〉と具象化された形象としての〈仏塔〉として継承されました。後者はとくにブッダの存在を自己の外側に求め、ブッダにまみえること（見仏）や、やがては他方世界に仏国土（浄土）を建立し、その世界に自ら赴くこと（往生）を願う仏教も登場します。外在するブッダについて、その軌跡を追いかけていきます。

仏塔と仏性



鈴木 隆泰 (すずき たかやす)

1964年東京都生まれ。東京大学工学部・文学部卒業。同大学院人文社会系研究科博士課程中退。博士（文学）（東京大学）。東京大学東洋文化研究所助手を経て、現在、山口県立大学国際文化学部教授。日蓮宗善應院住職。専門はインド哲学仏教学・宗教学。2004年に日本印度学仏教学会賞受賞。著書に『葬式仏教正当論』（興山舎）、『内在する仏 如来蔵』（春秋社）他がある。

【講師からのメッセージ】

インド仏教の「下地・土台」としての仏塔信仰を背景として、初期大乘経典は信仰の中心軸を「法・経典」へとシフトしようとしていました。その動きは『涅槃経』において〈仏性（個々人に内化された仏塔）〉というかたちで、ひとつの極致を迎えることになるのです。

タイムテーブル

- 18:00 開会（17:30開場）
- 18:10 講演1 井上 陽 「外在するブッダとの出遇い～仏塔から浄土信仰へ～」
- 18:40 休憩
- 18:50 講演2 鈴木隆泰 「内なる仏をもとめて～仏塔と仏性～」
- 19:20 休憩
- 19:30 対談 「ブッダはどこにいるのか？」
- 20:30 閉会

※要事前申し込みおよび事前支払い（クレジットカード支払いまたは銀行振込）。
※お客様都合によるキャンセルにともなう返金はできません。
※諸事情により、開催日程およびテーマ、会場等が変更になることがあります。
※体調のすぐれないお客様についてはご来場をお控えください。

